なら みち

2013 SUMMER 夏

奈良教育大学イメージキャラクター
「なっきょん」

奈良教育大学 広報誌
NARAYAMA
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S
SEASONAL PUBLICATION

＜題字＞名誉教授　池田 桂鳳

特集

教師力を高める4年間の学び

羅針盤
～社会の要請に応えるために～
学生ボランティアの取組

ラボ・レター
音楽教育史、音楽文化史、
民族音楽学
劉麟玉研究室

なっきょん's CLUB 企画
奈教のひみつ
授業紹介～実践英語表現研究～

ブカツ魂！
合氣道部

ならやま

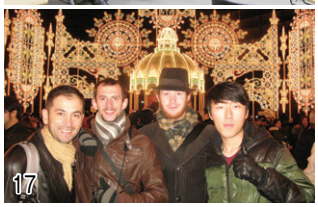
奈良教育大学 広報誌
NARAYAMA
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S SEASONAL PUBLICATION
＜題字＞名誉教授　池田 桂鳳

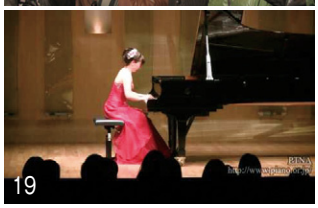
CONTENTS

02

07

15


17


19

2 特集
教師力を高める
4年間の学び

7 羅針盤
～社会の要請に応えるために～
学生ボランティアの取組

10 クローズアップ
フィールドからの情報を読み解く―陸水物理学が専門の藤井智康准教授

13 ラボ・レター
音楽教育史、音楽文化史、民族音楽学　劉麟玉研究室

14 ひと・あれ・これ
地域推薦で入学し、国語教諭として教壇に立つ濵尾友貴さん

15 なっきょん's CLUB企画
奈教のひみつ 授業紹介～実践英語表現研究～

17 留学生レポート
リヨン第三大学（フランス）　増村里美さんとスタルダー ルカさん

19 キラリ☆奈教生
国際規模のピアノコンクールで3位に入賞し、学長表彰を受賞した西部裕香子さん

20 ブカツ魂！
合氣道部

20 活躍する奈教生　女子バレーボール部

21 キャンパスニュース

22 奈良に息づく仲間たち

23 奈教生に聞きました！
4年間でやりたいこと

表紙のはなし

大学での4年間

今回の表紙は、写真部の阿形（あがた） 尚（ひさし） さん（教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 国語教育専修 1 回生：奈良県立畝傍高等学校出身）が撮影しました。

「この写真は大学祭実行委員会メンバーによる一コマです。大学での４年間は、日々の勉学への努力の積み重ねが最終的にどれだけ充実した４年間を過ごせるかの鍵になると思います。しかし、同じくらい大事なことは、４年間を共に過ごす仲間だと私は思います。部活・委員会・サークル…場所はどこでも構いません。とにかく共に４年間を過ごす素敵な仲間を見つけ、共に４年間を見据えて頑張る。そんな大学生活を新入生の方にも送ってもらいたい、そんな思いがこもっています。」

特集

教師力を高める4年間の学び

Message（メッセージ）

理事・副学長（教育担当）生田（いくた） 周二（しゅうじ）

本学は、皆さん自身が入学時から目指す学校教員の夢の実現のため、個性輝く大学生活4年間を設計して欲しいと願っています。

このため、本学独自のものとして、より効果的な学習ができる基準である、「カリキュラム・フレームワーク」（Cuffet（カフェット））があります。Cuffetは、新任教員に求められる目標に基づいたもので、これを基本にして「教職系列」、「実践系列」、「教科系列」の３つの系列の授業科目をカリキュラム・マップとして明示し、開設しています。特に教職系列では、１回生から活用する「教職ノート」において系統的に学びを進め、教育の課題把握、授業法やそれに必要な教材づくりなどを学びます。例えば、入学直後の第１学年では「大学での学び入門」、「教職入門」、「現代教師論」、第２学年では「教育実習スタートアップ」、「教育実践基礎演習」、「板書実践指導」、第3学年では「教育実習」とその事前・事後指導、第4学年では「教職実践演習」、「卒業論文」により4年間のまとめを行います。

さらに自分の得意分野を広げたり、より専門性を高められるように、特色プログラム（理数教育、食育、スクールサポート、特別支援教育、保育士、文化遺産教育など）が開設されています。

皆さんの学びを応援する奈良教育大学を、次のコーナーで紹介していきます。どうぞご覧ください。

学びの質保証のための3つのツール

本学では、皆さんの教員という夢の実現に向けての学びを支える大きなツールとして、「カリキュラム・フレームワーク（Cuffet（カフェット））」「教職ノート」「履修記録」を用意しています。

奈良教育大学生は、これらを活用し、定期的に自らの学びを振り返って見直しながら、質の高い教員になるための学びを積み上げていきます。

※Cuffet：Curriculum framework for expert teacher

教職ノート

より質の高い教員の学びを得るための「ガイドブック」・「ワークシート」

教職関連科目の学習履歴を蓄積できます。

カリキュラム・フレームワーク（Cuffet（カフェット））

授業科目構成の基本的な枠組み

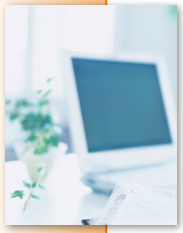
卒業時に新任教員として備えるべき最小限の資質能力基準を示しています。

次ページ以降で、それぞれ詳しく紹介します。

履修記録

学びの状況の点検・確認

学期ごとに自らの単位修得や成績の状況を確認し、Cuffetの目標資質能力基準に沿って自己評価します。



≪カリキュラム・フレームワーク≫　Cuffet（カフェット）

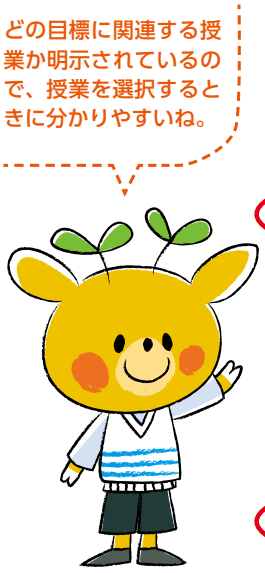
本学では、学位授与方針に定められた、卒業までに身につける力量の具体的な項目とそれを育成する授業科目の構成をカリキュラム・フレームワークとして定めています。

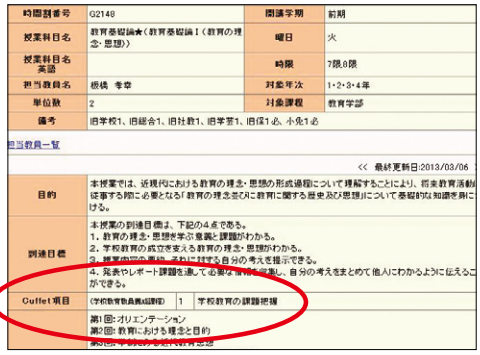
具体的には、卒業時に新任教員として備えるべき最小限の資質能力基準を目標として7項目（以下参照）定め、それぞれの授業科目がどの目標に関係する科目なのかをシラバス上に明示しています。これによって、授業を選択する際に、その授業が何を目標にしているのかを知ることができ、卒業時に備えるべき資質能力の獲得に向けて学びを積み上げることができます。

【7つの目標資質能力基準】 http://www.nara-edu.ac.jp/research/05_curriculum.html

1．学校教育の課題把握		教育の目的・歴史、人権、さらには教育や学校に関する法令などを理解し、現代的な教育課題を把握できる。
2．教科・領域に関する基礎的知識と教育実践への具体化		小学校、中学校の教科内容とその系統性を理解し、教育実践に活用することができる。
3．情報活用能力		主な情報機器を利用し、獲得した情報を教育活動に具体化できる。
4．授業力	4．1 学習設計	学習指導計画立案に関する基本的事項を理解し、児童・生徒の発達段階に応じて作成することができる。
	4．2 学習指導	多様な指導方法を理解し、児童・生徒の発達段階に応じた指導をすることができる。
	4．3 学習評価	多様な評価方法を理解し、児童・生徒の発達段階に応じて用いることができる。
5．児童・生徒理解と教育実践への具体化		児童・生徒の身体的・認知的・情意的発育・発達に関する基礎的内容を理解し、教育実践に具体化できる。
6．学校と地域社会との連携		学校の組織的な教育活動や経営活動、地域の教育活動などに関わることの重要性を理解し、教育活動に生かすことができる。
7．職能成長		教師の仕事や役割、責任を自覚した上で、教師として自己成長する意味とその方法を理解し、自ら実践することができる。

【シラバスの例】





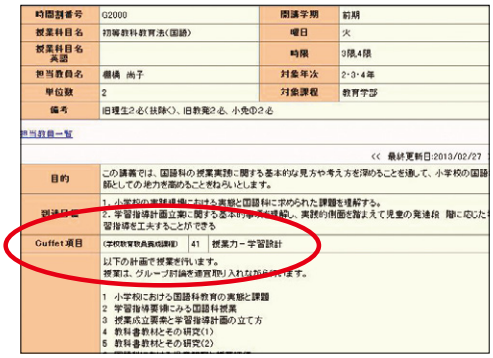
時間割番号	G2148	開講学期	前期
授業科目名	教育基礎論Ⅰ（教育の理念・思想）	曜日	火
授業科目名英語		時限	7限,8限
担当教員名	板橋 孝幸	対象年次	1・2・3・4年
単位数	2	対象課程	教育学部
備考	旧学校1、旧総合1、旧社教1、旧学芸1、旧保1必、小免1必		

担当教員一覧

<< 最終更新日:2013/03/06

目的	本授業では、近現代における教育の理念・思想の形成過程について理解することにより、将来教育活動に従事する際に必要となる「教育の理念および教育に関する歴史及び思想」について基礎的な知識を身につける。
到達目標	本授業の到達目標は、下記の4点である。 1．教育の理念・思想や学ぶ意義と課題がわかる。 2．学校教育の成立を支える教育の理念・思想がわかる。 3．教育内容の選択、それに対する自分の考えを提示できる。 4．発表やレポート課題を通して必要な情報を収集し、自分の考えをまとめて他人にわかるように伝えることができる。
Cuffet項目	（学校教育職員養成課程） 1 学校教育の課題把握

第1回：オリエンテーション
第2回：教育における理念と目的



時間割番号	G2000	開講学期	前期
授業科目名	初等教科教育法（国語）	曜日	火
授業科目名英語		時限	9限,4限
担当教員名	櫛橋 尚子	対象年次	2・3・4年
単位数	2	対象課程	教育学部
備考	旧理生2必（抜除く）、旧教発2必、小免0.2必		

担当教員一覧

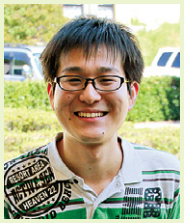
<< 最終更新日:2013/02/27

目的	この講義では、国語科の授業実践に関する基本的な見方や考え方を深めることを通して、小学校の国語科としての能力を高めることをねらいとします。
到達目標	1．小学校の実践現場における実態と国語科に求められた課題を理解する。 2．学習指導計画立案に関する基本的事項を理解し、実践的側面を踏まえて児童の発達段階に応じた学習指導を工夫することができる
Cuffet項目	（学校教育職員養成課程） 41 授業力－学習設計

以下の計画で授業を行います。
授業は、グループ討論を適宜取り入れながら行います。

1 小学校における国語科教育の実態と課題
2 学習指導要領にみる国語科授業
3 授業成立要素と学習指導計画の立て方
4 教科書教材とその研究(1)
5 教科書教材とその研究(2)

利用者の声



教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 国語教育専修 2回生
吉田（よしだ） 尚平（しょうへい）さん
奈良県立郡山高等学校出身

大学では今までの学校とは異なり、自分で授業を選択します。どの授業を選べば良いのか分からずに、どうしても自分の好きな授業や得意な授業ばかりを選んでしまいます。私も1回生の前期の授業は、好きな授業ばかりを選んでいました。

奈良教育大学では、教師に必要な資質能力を７つに分け、Cuffet として授業ごとに示しているので、自らの大学での学びを分かりやすく判断することができます。前期の終わりに初めて Cuffet を確認して、自分の学びが偏っていたことに気づきました。後期からは自分の好きそうな授業だけではなくあまり興味の引かれない授業を選択してみましたが、教員採用試験や教員になった際に役に立ちそうなことを学ぶことができました。

２回生でも Cuffet を見て幅広く学ぶことで、夢の教員に近づけているように思います。Cuffet を上手く活用することは、一つのことだけができる教師ではなく、現場で通用する教師になる近道であると思います。

４年間の成果を発表①

４回生時には、これまでの自らの専門分野に関する学修成果の発表の場として、卒業論文の発表会や卒業制作展、卒業演奏会などの機会が用意され、広く一般に公開されることもあります。中には、毎年一般の方が楽しみにされているものもあります。

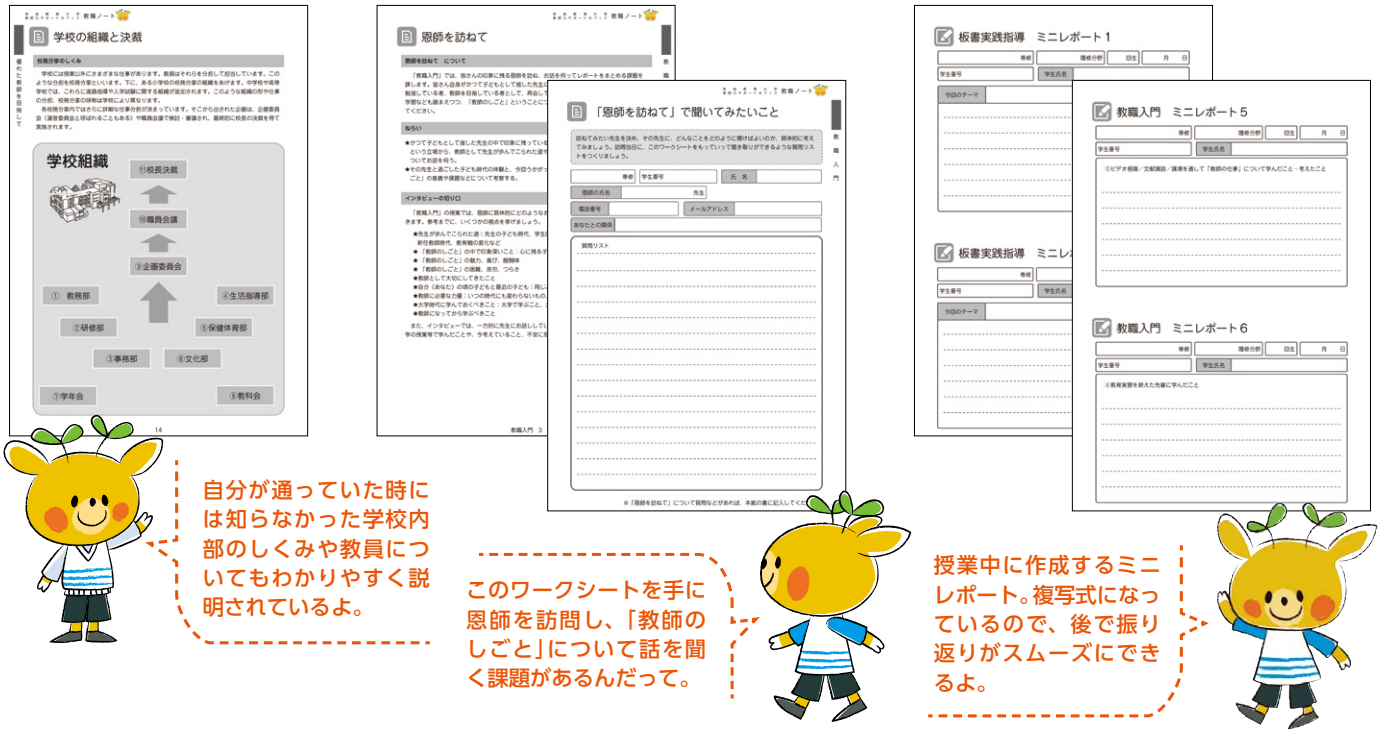
書道科卒業書作展（一般公開）

大学院 修士課程 教科教育専攻 2回生
柳澤（やなぎさわ） 美希（みき）さん

書道科の学生にとって卒業書作展は、学生生活の集大成となるものです。私たちはこの展覧会のために１年間かけて作品制作や展示、広告などの準備をしていきます。作品制作に関しては、繰り返し練り直した作品を、何百枚も書きこみます。締め切りが近づくにつれ、少しでも時間があれば書き、また大学に泊まって夜通し書くようにもなり

≪教職ノート≫

教職ノートは、教職の学びを支え、確かな教師力を身につけて卒業してもらうために平成22年度～24年度に実施された「教師力モデル開発プロジェクト」の一環として作成されました。「教職ノート」は、より質の高い教師の学びを得るために編まれたガイドブックであり、ワークシートであり、1回生時に配付されます。教員や学校制度、カリキュラムなどについての解説や紹介が掲載されており、また、教職関連の科目で使用するワークシートが掲載されており、4年間の学習の履歴を振り返る資料となります。



教育学部 学校教育教員養成課程 伝統文化教育専攻 文化遺産教育専修 2回生

利用者の声

本多（ほんだ） 理（おさむ） さん

私立帝塚山学院泉ヶ丘高等学校出身

教職ノートは、教員を目指す学生が、より質の高い学びを得るために編まれたガイドブックで、学生は、教職に関わる各講義には毎回携行し、講義終了時に複写式のミニレポート用紙に提示される課題、あるいは講義の感想を記入し、これを提出することで、講義の内容を自ら再認識、定着させることができます。

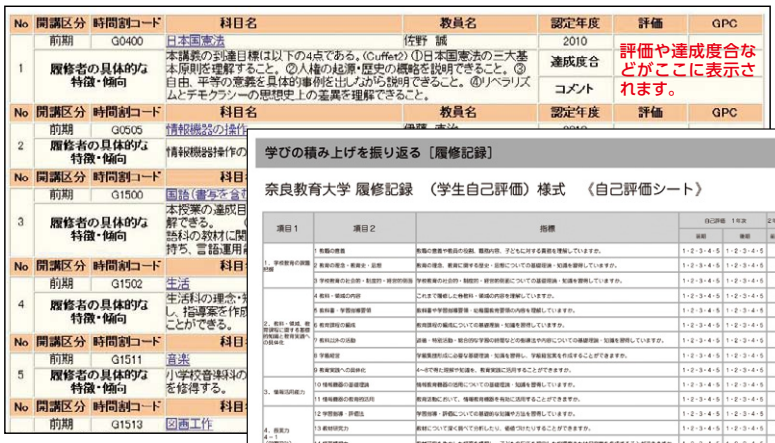
このノートを用いる最も大きな利点は、提出課題のミニレポートが複写式であるということだと思います。大学での授業の提出課題は、一度提出すると返却いただけないことも多く、講義を受けたことでどのような知識を得たのか、考え方の変化があったのかなどが時間の経過と共によく分からなくなることもあり、学期終盤には多くの配付資料を一から見直すこともしばしばです。自分が過去に提出した文章を読み返すことで、講義の内容を思い出しやすくなる複写式の提出課題は教職ノートの大きな強みで、一方的に与えられ、指示の下に完成させる教材とは違い、授業や実習などで学び、感じるたびに少しずつ使用者と共に成長させることのできる希有な教材であると思います。自ら日々進化させていく「教職ノート」は、教員を目指す学生の心強い相棒です。

ます。伸び悩むこともありますが仲間と励まし合いながら壁を乗り越え、そして出来上がるのがこの卒業書作展の作品です。

大学４年間で培ってきた書道の技能、共に学んできた仲間への“ありがとう”の想い、自分に対する自信などさまざまなものがぎゅっと詰まった、書道科の学生にとってこれからの人生の糧になるような展覧会です。

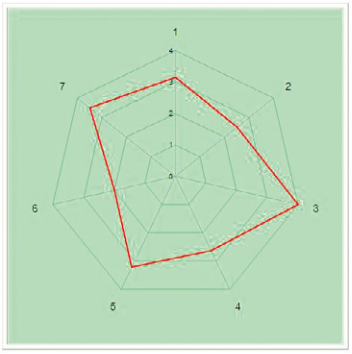
≪履修記録≫

自らの教職の学びの状況を学期ごとに点検・確認し、次の学期の学びにつなげていく仕組みとして「履修記録」を提供しています。1回生前期終了時からこの「履修記録」によって自分の単位修得や成績を確認し、その学期の学習を振り返ってどのような資質が形成されたかを、履修記録の「自己評価シート」に5段階で自己評価します。この自己評価に基づく、担当教員との相談や助言指導によって、不足している部分や充実すべき学習内容等を補っていくことになります。この評価や学習状況の振り返りの際には、「カリキュラム・フレームワーク」として定められている7つの目標資質能力基準に沿って確認していくことになります。この「履修記録」は、最終的に4回生後期に開講される「教職実践演習」（必修科目）で4年間の学びの集大成として、教員としての資質能力が身についているかを確認する際に活用され、不足する部分や課題があれば補完的に指導が行われます。



No	開講区分	時間割コード	科目名	教員名	認定年度	評価	GPC
1	前期	G0400	日本国憲法	佐野 誠	2010	評価や達成度合などがここに表示されます。	
	履修者の具体的な特徴・傾向		本講義の到達目標は以下の4点である。(Cuffe+2) ①日本国憲法の三大基本原則を理解すること。②人権の起源・歴史の概略を説明できること。③自由、平等の意義を具体的事例を出しながら説明できること。④リベラリズムとデモクラシーの歴史上の緊張を理解できること。		達成度合		
					コメント		
No	開講区分	時間割コード	科目名	教員名	認定年度	評価	GPC
2	前期	G0505	情報機器の操作				
	履修者の具体的な特徴・傾向		情報機器操作の				
No	開講区分	時間割コード	科目				
3	前期	G1500	国語（書写を含む				
	履修者の具体的な特徴・傾向		本授業の達成目解できる。語科の教材に関持ち、言語運用				
No	開講区分	時間割コード	科目				
4	前期	G1502	生活				
	履修者の具体的な特徴・傾向		生活科の理念・し、指導案を作ることができる。				
No	開講区分	時間割コード	科目				
5	前期	G1511	音楽				
	履修者の具体的な特徴・傾向		小学校音楽科の を修得する。				
No	開講区分	時間割コード	科目				
	前期	G1513	図画工作				

学びの状況を見直しながら学びを積み上げ、確かな教師力を身に付けていくんだね。



カリキュラム・フレームワーク
1 学校教育の課題把握
2 教科・領域に関する基礎的知識と教育実践への具体化
3 情報活用能力
4 授業力
5 児童・生徒理解と教育実践への具体化
6 学校と地域社会との連携
7 職能成長

利用者の声

教育学部 学校教育教員養成課程 教育発達専攻 教育学専修 2回生
藤田（ふじた） 国哲（くにてつ）さん
奈良県立高田高等学校出身

学務情報システムの履修記録を活用することが、「4 年間の学び」を充実させるためにとても重要だと思います。履修記録に関して大きく 2 つの利点があると私は感じています。1 つ目に、「学習状況の把握と改善に有効」であることです。学務情報システムでは、個人成績の確認を通して、今期の成果・改善すべき点を知ることができ、科目によってはコメントもあるので、次の学びに生かすことができます。2 つ目に、「自己反省の繰返し・蓄積ができる」ということです。学期を振り返って自己評価をするシステムがあるので、学習状況をより反省的に見つめ直して、記録として蓄積でき、4 年間の学びが想起しやすくなると思います。また毎学期、自己評価をもとに自専修の教員の方から面接やアドバイスを行っていただけるのは、自分の大学での学びをどのようにしていけば良いのか考えることができてとても有意義だと思います。

4年間の成果を発表② 音楽科卒業演奏会（一般公開）

大学院 修士課程
教科教育専攻 2 回生
西部（にしべ） 裕香子（ゆかこ）さん

音楽教育専修の学生は 3 回生から計 4 回の学内演奏会に出演する機会があります。その中でも卒業演奏会は 4 年間の集大成を発表する場であり、同回生の仲間と共に出演できる最後の演奏会でもあるので格別の思いがあります。

演奏する曲は各々が研究したい曲を選択することができるのでより一層思い入れが強いものとなります。卒業演奏会に向けて日々練習を重ねますが、最後だからこそ必ず成功させたいという思いが強すぎて、本番までに自分が納得できるような演奏ができるようになるのだろうかと焦燥することもありました。そんな時、一緒に出演する友人同士でお互いを高め合い、励まし合うことでモチベーションを高く保つことができました。また先生が的確なアドバイスをくださり、温かく見守ってくださったおかげで、演奏会に向けてとても良い環境で練習することができました。

専門性を高めるプログラム

学習の幅を広げつつ、教職に関する資格を取得できるよう、資格取得に向けたプログラム（資格プログラム）を開設しています。
また、本学の特色ある学問分野での学びを深めることを目的として、右に示した特色プログラムを開設しています。その一部を以下で紹介します。

特色プログラム	
新理数（SST、SSTベーシック）	食育・健康教育
教育・心理探求	保育士試験受験応援
実践的特別支援教育	文化遺産教育
スクールサポーター（1級、2級）	

スクールサポーター

教員を目指す学生が、より早い段階からより長期にわたって現場経験を積むことができるように、教育実習とは別に体験型学習支援「スクールサポート研修・認証制度」を実施しています。教育委員会と連携しながら学生をスクールサポーターとして学校現場に送り出すと共に、単なるボランティア体験にとどまらないように年間を通して学びの機会を提供し、受講した研修に応じて「スクールサポーター1級、2級」の認証を行っています。

学生の声

教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 社会科教育専修 2回生
石谷（いしたに） 遼一（りょういち）さん
愛知県立岡崎北高等学校出身

スクールサポーター２級

私は今、奈良市の幼稚園でスクールサポーターとして活動しています。幼稚園では主に園児たちの遊び相手として活動しています。また、準備や作業の遅れている園児に寄り添い、支援していくのもサポーターの仕事です。園児たちはとても元気で、サポートにも根気と体力がいるのですが、どうしたら園児たちが自分で作業を進め、目標に到達できるかを考えながら活動することはとてもやりがいがあります。

園児たちは私たちサポーターが来るのをとても楽しみにしてくれています。幼稚園に着いたらすぐに飛びついてきて「一緒に遊ぼう！ご飯食べよう！」の連続です。家に帰ってからも「サポーターの先生が○○してくれてね！」と楽しそうにずっと話している園児もいるそうです。

スクールサポーターとしての活動は、現場の空気をその身で感じることができる貴重な体験です。園児たち、幼稚園の先生方の助けになれるような活動をこれからも行い、スクールサポーター１級の取得を目指そうと考えています。

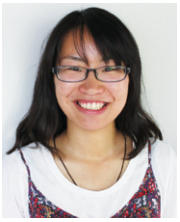
新理数（SST／SSTベーシック）

理数教育研究センター長　松山（まつやま） 豊樹（とよき）教授

理科や数学が苦手な子どもたちを、心底、科学好きにする先生、それがスーパー・サイエンス・ティーチャー（SST）です。大学の標準カリキュラムに加えて特別な教育プログラムを受け、高度な教科専門性はもちろん、子どもたちの気持ちに寄り添った指導ができる実践力をも兼ね備えた文字通りスーパーな理数教育の先生です。

10年余の歳月をかけて開発してきた新理数プログラムでは、教材開発、連携協力校でのさまざまな教育活動、高度な教科専門ゼミナール、学生提案プロジェクト、教科書研究等々、学生の自主性を尊重した勉学活動が行われています。それらの結実として、本学独自の資格として学長からSSTの認証を受けます。加えて、非理数系学生のためのSSTベーシックも用意され、自らの理数苦手意識を克服してサイエンス大好き先生になることができます。

学生の声



教育学部
学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース 4回生
村田（むらた） 沙耶（さや）さん
大阪府立鳳高等学校出身、
平成25年度SST認定見込み

新理数では科学の祭典、曽爾サテライト、郡山サテライト、教科書研究などの活動を行ってきました。子どもたちの前で授業をする機会も多く、失敗することもたくさんありました。しかしその度に先輩、後輩、同回生の仲間と共に悩み、先生方に指導していただき、そのおかげで、実践力が身についてきていると思います。

また、先生方は私たちのやる気を全面的にサポートしてくださるので、どんなこともチャレンジすることができます。他の学生よりも多く授業を取らなければならず大変なこともありましたが、活動の中でたくさんの人と出会い、より充実した大学生活を送ることができていると思います。

卒業生の声

松本（まつもと） 祥一（しょういち）さん
教育学部 総合教育課程 科学情報コース 平成23年度卒業
奈良県橿原市立橿原中学校教諭、平成23年度SST認定

「ならやま」の読者の皆さんこんにちは！私は奈良教育大学の卒業生で、現在は奈良の中学校で理科の教員を務めています。今年で2年目になりますが、子どもたちと接していると、毎日が新鮮で、いろいろなことに気付かされます。とても楽しいです。

さて、私は理科の教員であるわけですが、日々の授業を考えるときに、ふと思い出すことがあります。それは大学時代に参加していた新理数プログラムでのいろいろな出来事です。魅力ある理科の教員になるためには、まず理科の魅力を伝えられなければならないと私は思います。

私自身は、大学に入るまでは理科が得意なだけであって、理科にとても興味があるという学生ではありませんでした。しかし、大学に入って新理数プログラムに参加し、理科、そして数学がこれほどまでに魅力的なものだったのかと気付かされました。それぞれ個性的な大学の先生方が語ってくださる科学の内容は、私にとって、本当に現実にこんなことがあっていいのかと思わせられるほどの新感覚でした。興味のある方はぜひ履修してください！

羅針盤

奈良教育大学の取り組み

～社会の要請に応えるために～

学生ボランティアの取組

本学では、学生がさまざまなボランティアに取り組んでいます。特に一般ボランティアでは、ボランティア活動の情報提供及び学生同士の情報交換の場として、「ボランティアサポートオフィス」を設置し、また、学外より専門家に相談員としてお越しいただき、学生のボランティア活動をサポートしています。

以下では、ボランティアサポートオフィスの主な取組例を紹介します。

ボランティアサポートオフィス
相談員　小島 道子（こじま みちこ）氏

1回生の皆さんは入学して数ヶ月がたちました。ようやく大学生活になれてきたところでしょうが、高校と違い大学は自由である分、求めなければ与えられず、待っているだけでは有益な情報をキャッチすることはできません。自らアンテナを張り積極的に情報を収集して、より有意義な学生生活をエンジョイするようにしてください。

同じことがボランティア活動についても言えます。今までも誰かに勧められてボランティア活動をしてきたかもしれませんが、ボランティアの語源であるラテン語の Voluntas（自由意志）からも推測できるように、自由な意志に基づいて自発的に社会参加活動をするのが本来の姿です。社会の成熟に伴い人々の価値観が多元化し、それらが複雑に絡み合って社会が構成されるようになりました。そこでの社会的課題は従来の社会システムだけでは解決できなくなっており、市民の発意に基づく活動が求められています。それらの社会的課題解決の方法の一つとしてボランティア・NPO 活動があります。既存のボランティア活動に参加するだけでなく、自ら社会的課題を見つけ出し、その課題解決に向けて考え、行動に移すことが重要です。多様な価値観の人とぶつかり合い人間性を磨く機会ともなります。ボランティアサポートオフィスではこのようなチャレンジをする学生のサポートも行っています。

東日本大震災教育復興支援

宮城教育大学との連携により、東日本大震災で被災した地域の学校等において、学習補助を中心とした教育復興支援活動を行っています。平成23年7月～8月の第1次派遣を皮切りに、平成25年3月の第7次派遣まで、7回（平成23年度3回、平成24年度4回）、学部1回生から大学院2回生までのべ48名が現地で活動しました。

現地では、主に小学校や中学校において、教員の補助や自学自習の支援を行いました。活動中は毎晩ミーティングを行い、それぞれの体験を共有する機会が設けられました。

また、学生を派遣するにあたり、事前研修及び事後のフォローアップを実施しました。事前研修では、専門の教員らが、ボランティアとしての心構えや現地の状況の説明、学校での学習支援の方法・留意点の説明、災害を体験した子どもへの接し方や学生自身のメンタルヘルスなど心理面に関する説明、派遣メンバー同士が円滑に活動を進められるようアイスブレーキングを含めたグループワーク等を実施し、現地での活動に向けたサポートを行いました。事後のフォローアップでは、活動終了後1週間以内に、臨床心理士の資格を持つ教員が学生1人ずつと1時間程度面談し、現地での経験を振り返る時間を設けました。経験を言語化することで活動をまとめ、二次受傷の有無の確認等を行いました。

8月3日から10日には第8次派遣が行われる予定で、被災地への学生ボランティアの派遣は今後も継続されます。

1 教室での活動の様子
2 第5次派遣宿舎でのミーティング
3 現地での活動を学内でパネル展示しました

	活動期間	参加学生数	活動場所
第1次派遣	平成23年7月30日～8月6日	8(男性5、女性3)名	七ヶ浜町、大崎市
第2次派遣	平成23年9月10日～　17日	6(男性2、女性4)名	岩沼市
第3次派遣	平成24年3月11日～　18日	10(男性7、女性3)名	松島町
第4次派遣	平成24年8月　4日～　11日	6(男性2、女性4)名	丸森町
第5次派遣	平成24年9月23日～　29日	8(男性4、女性4)名	丸森町
第6次派遣	平成25年3月　2日～　9日	6(男性3、女性3)名	松島町
第7次派遣	平成25年3月　9日～　16日	4(男性3、女性1)名	松島町

Student's Voice

学校教育教員養成過程
理数・生活科学コース3回生
親木（おやのき） 翔平（しょうへい） さん
奈良県立山辺高等学校出身

私は、第5次派遣と第7次派遣の2回、大学を通して支援へ向かいました。

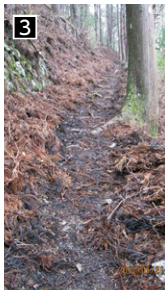
それらの活動を終えて、「被災地」に対する意識が大きく変わりました。考える機会も増え、積極的に情報を集めるようになりました。大切なことは、考えるだけではなく、言葉にし、かつ何か行動することだと思います。当然、現地へ向かうことだけが復興支援であるとは思っていません。しかしながら、「私たちは忘れていません」と伝えるためにも今後も赴きます。

「できるときに、できることを」を基本に、自分に合った活動を続けていこうと思います。

十津川道普請

平成23年9月の台風12号で被災した奈良県十津川村において、持続発展・文化遺産教育研究センターと共に、古道等の修復を行う道普請に取り組んでいます。平成24年1月に最初の活動を行い、その後現在までに3回実施、のべ約50名の学生が道普請に汗を流しました。特に、平成24年11月に実施した活動では、「学生のみにとらわれずより多くの方に知ってもらいたい」「社会人との協働により大きなムーブメントにしたい」という本学及び本学学生の思いにご賛同いただいたNPO法人奈良NPOセンター及び近畿労働金庫（プロジェクト／奈良すまいる）、奈良県労働者福祉協議会、全労済奈良県本部のご支援のもと、社会人と学生が連携して行う道普請を学生実行委員会が企画・実施し、世代や職種を超えた交流が行われました。また現地では、作業だけでなく十津川村に実際に触れてその文化や歴史などを知る機会も用意され、十津川村振興の一助ともなりました。

今年も11～12月頃に奈良NPOセンター・近畿労働金庫等と連携した道普請を予定しています。



1 作業風景
2 道普請作業前
3 道普請作業後
4 参加者集合写真

学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース4回生
春日 光（かすが ひかる）さん
長野県伊那北高等学校出身

Student's Voice

社会人と学生合同の十津川道普請の企画運営に携わりました。十津川村・奈良NPOセンター・近畿労働金庫など学外の団体と協働し、多くの方に参加していただきました。実行委員会では当日の行程や事前研修、事後報告会など何度も議論し計画しました。今までは参加することに精一杯でしたが、この活動を通して、先のことを考えて自分から主体的に活動できるようになってきました。このような活動を今後も続けて行きたいと思います。

あいふた From 奈教

本学では、ゴミ箱の横などに、ペットボトルキャップを回収するための容器が設置されています。これは、「あいふた From 奈教」プロジェクトの学生が設置しているもので、ペットボトルキャップを集めてポリオワクチンを購入し、発展途上国の子どもたちに送る活動に取り組んでいます。

「ペットボトル本体は一般的にリサイクルされているけれど、キャップはあまりリサイクルされていない。キャップがそのまま大量に燃やされるのは環境によくない」「発展途上国の子どもに何かできないか」という2つの考えが一致する活動として始まりました。平成20年10月の大学祭で回収を始め、その後学内に回収ボックスを設置して継続的に回収すると共に、周辺の学校や病院などにも協力を依頼しました。その結果、活動を始めてから2年と少し、平成23年2月11日にはポリオワクチン1,000人分のキャップ回収を達成、NPO法人エコキャップ推進協会より西日本エリアのエコキャップ活動拠点学生団体として認定されました。さらに、平成25年2月6日に2,000人分を達成、3月26日には、これを記念してゲームなどを楽しみながらキャップリサイクルについて学ぶイベントが行われ、幼稚園児や小中学生、その保護者ら約100人が参加、キャップ回収・リサイクルに関わる人が交流する良い機会となりました。

なお平成25年7月11日現在、キャップ回収数1,976,030個（ワクチン2,420.4人分）を達成、15,248.2kgのCO_2発生を削減しました。今後も継続的に実施されます。

1 キャップ選別作業
2 キャップで製作した「なっきょん」

学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース4回生
臼杵 亜衣（うすき あい）さん
広島県立呉三津田高等学校出身

Student's Voice

作業自体は、回収されたキャップの中の汚れたものをきれいにして、処理工場の方に渡すという、比較的単純な作業です。そのため、生活の中に取り入れやすく、気軽に取り組める活動だと思います。この活動の中で私が感じることは、人とのつながりのすごさです。キャップ集めに協力してくださる方々、私たちが仕分けてきれいにしたキャップを処理してくださる方々とのつながりが、190万個のキャップ回収（ワクチン2,000人分）達成という成果になったのだと思います。私はその一端に関われていることに、とてもやりがいを感じています。

その他

ボランティアサポートオフィスでは、前記の取組の他にも、学生スタッフが立ち上げたプロジェクトのサポートや外部団体による教育・福祉・環境・国際理解・まちづくりなどのボランティア活動の紹介などを行っています。

◆「陸前高田市図書館ゆめプロジェクト」への参加（予定）

不要になった本を寄贈すると、その買取金額相当が、東日本大震災で大きな被害を受けた陸前高田市の図書館再建のために役立てられるという取組に参加する予定です。

◆学習支援スタッフ

学習環境に課題を抱える中学生のために、自学自習の学習支援を行っています。活動にあたって、事前に教育実践開発研究センターの教員が研修を行い、円滑に活動できるようにサポートしています。

◆留学生による異文化理解

本学で学ぶ留学生が小学校を訪れ、放課後子ども教室で自国の文化や子どもの様子などについて紹介しています。

気軽にのぞいてみてください！

ボランティアサポートオフィス

場所：教育実践開発研究センター内
利用時間：9時～17時
相談員：相談日はHPで確認してください。
連絡先：TEL 0742-27-9366
E-mail kojimami@nara-edu.ac.jp
HP：http://www.nara-edu.ac.jp/OCPESS/volunteer/top.html

※ボランティア活動をするときは、必ず年度毎に登録と保険の手続きをしてください。

ボランティアサポートオフィス以外でもさまざまな活動をしています

学校教育関係ボランティア

本学では、関係教育委員会と連携し、教員への意識の醸成と教育現場の支援を目的とした学生ボランティア派遣に関する協定書等を締結しています。これにより、多くの学生が奈良市や近隣の幼稚園や小中学校の現場に入って教職員の補助を行っています。

また、「スクールサポート研修会」や「こどもパートナー養成講座」の研修会を実施しており、受講者は「スクールサポーター」や「こどもパートナー」「こどもサポーター」の認証を受けることもできます。

この「学校教育関係ボランティア」については、「スクールサポートオフィス」が窓口です。

スクールサポートオフィス

場所：教育実践開発研究センター事務室内
利用時間：10時～17時
連絡先：TEL 0742-27-9350
E-mail kyoikushien@nara-edu.ac.jp
HP：http://www.nara-edu.ac.jp/OCPESS/

学生広報スタッフ「なっきょん's CLUB」

大学の広報活動に学生の皆さんの元気な力を生かそうと、平成21年度に発足しました。

今までにこんなことをしました！

- 駅広告の企画・構成・制作
- 広報誌「ならやま」の誌面企画・取材・編集
- 広報誌「ならやま」やホームページ、駅広告のモデル
- 着ぐるみを着用しての各種イベント参加、着ぐるみ補助など

オープンキャンパスでの着ぐるみ出演

駅広告のデザインをしました

大学広報には、学生の皆さんの力が必要です。
一緒に奈良教育大学のことを世間にPRしましょう！

お問い合わせ先

総務企画課広報担当（管理棟2階）
TEL 0742-27-9104
E-mail kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

クローズアップ

本学教員の研究を詳しく紹介

水は自然のメッセンジャー！フィールドからの情報を読み解く！

陸水物理学とは？

専門は、何ですか？ と聞かれ、「陸水物理学」と答えると、次に何をやっている学問ですか？ とさらに質問されます。そもそも「陸水」とは何か？「陸水学」とは何か？から説明しましょう。

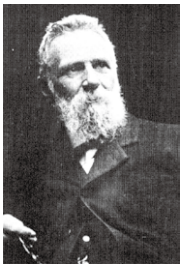
「陸水」とは、漢字が表しているように「海洋の水」に対する語であり、湖沼、河川、ダム湖、河口域、地下水、湿地、雪氷など、内陸部に存在する水を表わしています。つまり、われわれが生活している身近な自然に存在する“水”が当てはまります。

「陸水学」は、この陸水に関する総合科学として発展してきました。英語では、Limnologyと訳されますが、Limnologyはギリシャ語のLimnos（水たまり、湖、沼沢）に由来し、元来は「湖沼学」を意味していました。現在は湖沼だけでなく陸水全般に関する科学として定義づけられています。現在のように陸水で生じる諸現象を総合的にとらえる研究は19世紀末に始まりました。スイスのレマン湖を対象として研究を進めたF. A. Forel（フランソワ=アルフォンス・フォーレル）博士（1841-1912）、日本では1899年に山中湖の測深をおこなった田中阿歌麿博士（1869-1944）などの研究がその始まりとされています。

もともと、陸水学は、陸水で生じる諸現象の仕組みを解明することを主体としていた基礎（理論）陸水学が中心でしたが、その発展のなかから物質循環や水界生態系などを扱い、現在では、地球環境や水環境の悪化を防止するための応用陸水学も陸水学の重要な部分を占めるようになってきました。このように、「陸水学」は、基礎から応用に至るまで幅広い分野であり、私たちの生活に深い関わりを持っています。

陸水学の分科として、陸水物理学（水の動きなど）、陸水化学（水質など）、陸水生物学（生息する動植物など）などがあります。その分科のひとつである陸水物理学が扱う領域は、水の中の生物の生息や成長、水色に関連する光、湖や池の水温の分布に関連する熱、物質の動きに関連する水の動きなどを明らかにすることが対象となっています。

近年では、陸水学は、陸水だけを扱うのではなく、海（外洋）と陸との境界領域である沿岸海洋（岸に近いところ）も含め、山ー川ー海を一連として考えるようになってきています。



F. A. Forel
（『陸水学史』より）

陸水物理学との出会い！

私が陸水学と出会ったのは、大学の2回生の時でした。それまでは、私自身も「陸水学」について全く知りませんでした。というのも義務教育段階では陸水についてはほとんど扱わず、高等学校の地学で初めて海について学習するのが現状です。

では、どうして陸水学を扱う研究を志したかについては、高校生のころに高校物理の教員になりたくて、大学に進学し、物理学研究室への配属は決まっていましたが、2回生の時に私の恩師である奥田節夫先生

プロフィール

理科教育講座

准教授 藤井（ふじい） 智康（ともやす）

専門は、陸水物理学、沿岸海洋学。
岡山理科大学大学院理学研究科博士後期課程材質理学専攻単位取得満期退学。
博士（理学）（岡山理科大学，1998）。
民間の環境コンサルタント（環境調査）会社勤務を経て、現職。
奈良県環境審議会委員、愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会委員など。
現在、主に大阪湾の貧酸素水塊の動態、大気ー海洋間の二酸化炭素の放出・吸収量に関する研究を行っている。

チベット・プマユムツォ湖上（標高5020 m）

（京都大学名誉教授、元京都大学防災研究所所長）が転任してこられ、量子力学や電磁気学を扱う物理学ではなく、自然を相手にさまざまな現象を明らかにしていくために物理学を用いる地球物理学教室の門をたたいたことに始まっています。そこから、大学院（修士課程、博士課程）に進み、今に至っています。恩師に出会っていなければ、どのような道に進んでいたかは分かりません。人との出会い、学問との出会いによって人生は大きく変わります。

フィールドワークは重要！

近年では、コンピューターの価格や処理速度などは昔とは比べものにならないほど安く、速くなっています。そのため、コンピューターを用いた数値解析（シミュレーション）などを研究手法に取り入れている研究者も多くなっています。シミュレーションは、将来の予測をするためには、絶対必要なものであることは間違いありません。しかし、シミュレーションのみでは実際の現象を間違って解釈する可能性が十分にあることを認識しておかなければなりません（恐らく、皆さんも予測結果が正しいと考えてしまっているのではないでしょうか?）。

シミュレーションの元となるデータは、フィールドから得られるデータをしっかりと読み解き、ある現象が、どのようなメカニズムで生じているかを明らかにし、それを理論と結びつけ（数式化）、プログラムが作られ、初めて予測計算が可能となります。このデータ取得が適当であれば、予測も間違ってしまいます。つまり、陸水学や沿岸海洋学の分野は、フィールドからの情報は最も重要なものとなります。

湖や海では、風が吹けば混ざり、気温によって水温分布が異なり、水温、塩分、溶存酸素などは日々変化していきます。そのため、さまざまな期間にわたっての連続的な観測を必要とし、同時に「根気」と「忍耐力」、そして調査は一人ではできませんので「チームワーク」を必要とします。

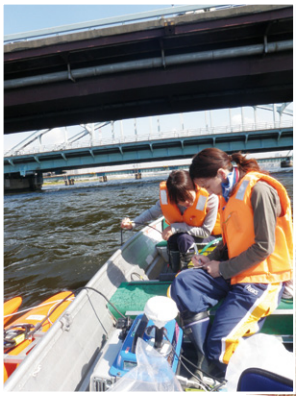
1回だけの調査であれば、そのときに、たまたま生じた現象かもしれませんので、数回あるいは数年かけて調査を行います。そのデータを整理し、解析することにより、初めて1つの現象が説明可能となることも少なくありません。観測や調査は、寒い、暑いはもちろん、つらいこともありますが、力を合わせて貴重なデータを取得できれば、つらいことは忘れてしまいます。

また、フィールドワークは、研究だけではなく、いろいろな人と人間関係を築ける場でもあります。調査には人の協力は必要不可欠であり、同じ研究室の者はもちろんですが、地元の漁師、水産試験場の研究員、他大学の先生や学生などの協力も必要となってきます。その中から、さまざまなことを学ぶことができます。そのため、私の研究室では、「青白きインテリはダメ！」、「根気！」、「チームワーク！」の3つが重要だと常に言っています。

私の学生時代の経験を話しますと、研究対象としていたフィールドは、中海・宍道湖（湖面積が日本で5位と7位の湖）であり、水産試験場の船で調査に出かけ、船上で1時間間隔に24時間調査をしたり、漁師さんの船で調査に出かけたりしていました。さまざまな話を調査中に聞くことができ、授業としての実習よりも、実習効果はあったように思います。

また、湖の中への観測機器の設置については、恩師から「水のことをやるなら一度自分でみてきなさい。私も昔、潜って調査をしたことがある」と言われました。それもあり、大学院の時にスキューバダイビング（C カード）、潜水士、小型船舶操縦免許を取得し、自分で研究に使用する観測機器の設置状況を潜って見てきました。潜水してみると、自分で取得したデータも違って見えてきます。実際にフィールドを“見る”、“感じる”ということはこの分野の研究にとって重要なことです。

中海の湖上にて（大学院学生時代）



淀川調査

中海の水中の
機器設置状況（藤井撮影）

最近はどのような研究を行っているか？

これまでは、中海・宍道湖、つまり汽水湖（海からの海水が川を遡って流入する湖）の研究を学生時代から14年間行っていました。代表的なものとしては、ヤマトシジミの生息に関連する貧酸素水塊（水中に溶けている酸素量が3.0 mg/L 以下の水塊）の動態、中海の淡水ー塩水境界面に発生する内部波の発生と動態について研究を行っていました。

奈良県にはため池は数多くありますが、湖や海はありません。本学に着任してからは、奈良県に近いフィールドとして大阪湾に関する研究を行うようになりました。全くこれまでのフィールドとは異なる沿岸海洋が対象になりますが、汽水湖も沿岸海洋も基本的には同じ研究手法で考えることができます。また、貧酸素水塊の問題は湖（淡水湖、汽水湖）や沿岸海洋(内湾や港湾)での共通の水環境問題の一つです。

さて、大阪湾（瀬戸内海の一部）で「今何が起こっているのか?」をお話しましょう。大阪湾は人間の体に例えれば、“メタボ”になっています。つまり、“栄養過多（陸域から窒素やリンなどの栄養塩が豊富に入る）”や“運動不足（湾内の流れが小さい）”などで、赤潮（あかしお）、青潮（あおしお）、貧酸素化が頻繁に起こっています（写真参照）。赤潮はご存じかもしれませんが、青潮は、赤潮よりもさらに悪い環境問題です。青潮について簡単に説明すれば、海水中の貧酸素化がさらに進むと無酸素化（水中に溶けている酸素の量がほぼ0 mg/L）し、硫化水素が発生するようになります。その硫化水素を含んだ無酸素水が海面に現れると青潮（水面がエメラルドグリーンの水色に変化）になり、沿岸の生物に深刻な悪影響を及ぼします。一方、瀬戸内海全体で見ると、大阪湾などの湾内では“メタボ”になっていますが、その他の海域では“栄養失調（窒素やリンの栄養塩が不足）”でノリの色落ちや不作などの問題が生じています。これは、高度経済成長に伴い、1960年代半ばから富栄養化による赤潮発生などの問題が生じたことから、瀬戸内海環境保全特別措置法（1978）により、窒素、リンなどの栄養塩や有機物の流入の総量が規制され、赤潮による漁業被害は少なくなりましたが、どの海域でも一律に規制がされていたために、近年、ある海域では栄養塩が不足する問題が生じてきました。このように水環境問題は簡単には解決できず、さまざまな現象を総合的に見ていく必要があります。

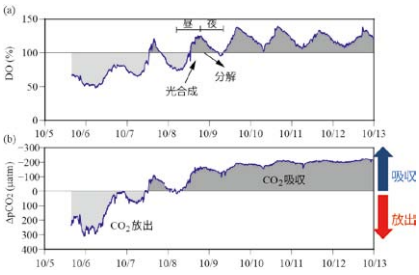
現在、さまざまな水環境問題を抱えている大阪湾で次のような研究を行っています。

(1) 貧酸素水塊抑制技術の開発

大阪湾での貧酸素化と青潮は、生物にとっては深刻な問題です。そのため、貧酸素・無酸素水塊を解消し，生き物の棲める港湾海域を再生・創造するための実効的な技術の開発を行うために、現地観測と現地実証試験を行っています。

(2) 大阪湾の二酸化炭素放出・吸収量

人間活動によって大気に放出されたCO_2の海洋への吸収量は、総排出量の約30%と見積もられています。海の中でも陸域からの人為起源の栄養塩や有機物が豊富に流入する沿岸海域では、植物プランクトンによる光合成が盛んであるため、大気CO_2の大きな吸収源となっていると考えられますが、日本の沿岸海域（東京湾・伊勢湾・大阪湾など）のCO_2の空間分布や時間変動および吸収・放出量については、まだ分かっていません。これらを、明らかにするために、湾内のCO_2測定手法の開発と現地観測を行っています（図参照）。



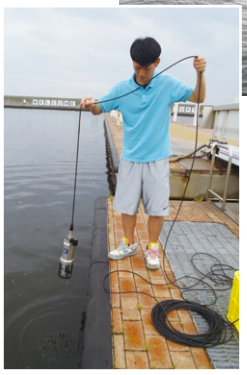
新西宮ヨットハーバーでのDOとΔpCO_2の変動（2011年）
昼間の光合成により、DOが増加、CO_2吸収が多くなり、夜間はその逆となっています。

大阪湾御前浜調査状況

新西宮ヨットハーバーの赤潮
（2009年5月10日）

甲子園浜の青潮（2008年9月19日）

尼崎港の
観測機器設置



水質の
機器測定

ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —

学校教育教員養成課程 教科教育専攻
音楽教育専修
(改組前：学校教育教員養成課程
身体・表現コース 音楽教育専修)
音楽教育史、音楽文化史、
民族音楽学

劉麟玉(リュウリンギョク)研究室

From

教育学部 学校教育教員養成課程
身体・表現コース 4回生

荒木(あらき) 彩音(あやね)さん
奈良県立平城高等学校出身

増田(ますだ) 次俊(つぐとし)さん
奈良県立郡山高等学校出身

劉研究室の紹介

私たちが所属する音楽教育専修の学生は、2回生の終わりに所属する研究室が決まります。その中でも劉研究室は、3回生から週1回のペースでゼミが始まり、それぞれに卒業論文のテーマを考え始めます。3回生の間は、4回生の先輩方の卒論の研究の様子などを見ながら、自分の研究テーマを考えていきます。そして4回生の4月に研究テーマを決め、それからのゼミは、それぞれの進み具合を報告したり、先生や他の学生の意見を聞いたりすることができる機会となります。

劉研究室のゼミでは、家庭では「お母さん」である劉先生を中心に明るく発言しやすい雰囲気の中、意見交換が行われます。また、卒業論文について研究を進めていく中で、いき詰まったり、何か困ったことが出てきたりすることがあります。そのようなときに、劉先生は的確な指導やアドバイスをしてくださり、先生やゼミの学生全員でより良い卒業論文にするために、日々取り組んでいます。

音楽教育をさまざまな視点から

これまでの劉研究室の卒業論文は、ティン・ホイッスルの教育楽器としての活用や特別支援学級における音楽教育についての研究など、“THE 音楽教育”というものから、学生の出身地で代々伝わるお囃子についての研究など、一見音楽教育とは関係ないと思われるものまでさまざまです。しかし、これらの研究は音楽文化とも密接につながっており、研究を行うことで、その地域のこれからの音楽教育に十分役立っていくのです。さまざまな視点から音楽教育のこれからを考えることができるのも、劉研究室ならではだと自慢できます。

また、中国や台湾からの留学生である院生や研究生が劉研究室には多く所属しています。ゼミで他国の音楽教育についての話を聞いたり、日本との違いを話し合ったりすることができます。「音楽を奏でる」という同じ根底の中に、国によって違いが生じることは面白く、すごく興味深いですよね。このようなことを日々のゼミで学習できることは、劉研究室の大きな魅力ではないでしょうか。

卒業論文のテーマ

●中学校音楽科におけるリコーダー教育の新たな可能性

リコーダー教育は、現代の学校音楽教育として定着しているが、日常生活の身近な楽器としては定着していないように思われる。そこで、リコーダー教育の内容を見直し、リコーダーを身近な楽器としてとらえることができるリコーダー教材や指導法について検討する。

●アイルランド楽器ティン・ホイッスルについての研究
—楽器表現の教材開発を焦点に

指穴を6つ持ち、息を入れると簡単に音が鳴り、指の小さい生徒でも指穴を比較的簡単に抑えることができる、アイルランドの伝統楽器「ティン・ホイッスル」は、どの生徒でも上達する可能性があると考えられる。さらに、日本でも安価で購入できるため、教育現場で活用することが可能であると考えられる。よって、このティン・ホイッスルを用いて「外国の音楽」を題材とした授業を試案する。

Student's Voice

私は、日本のオペラ劇場における字幕装置の研究をしています。今年3月の「学生オペラ2013」を観に来られた方はご存知かと思いますが、学生オペラ14回目にして初めて字幕を表示しました。2台のプロジェクターでパルテノンの柱に映し出しました。では、プロが演じる劇場での字幕装置はどのような仕組みになっているのか、観衆が物語をより理解するための工夫はどこにあるのかを探っていきたいと考えています。

教育学部
学校教育教員養成課程
身体・表現コース 4回生
増田(ますだ) 次俊(つぐとし)さん
奈良県立郡山高等学校出身

『ひと・あれ・これ』

―活躍する卒業生を紹介―

「今までの自分の『学び』を伝えたい」

奈良市立若草中学校勤務

濵尾（はまお） 友貴（ゆき）さん

（教育学部 学校教育教員養成課程 言語・社会コース 国語教育専修　平成24年3月卒業）

三島由紀夫『潮騒』の舞台、三重県神島へ

ゼミ旅行　霧の上海へ

卒業旅行では、アメリカのグランドキャニオンにチャレンジしました。

私は、昨年の4月から奈良市立若草中学校で国語教諭として勤務しております。今年の春からは1年生の学級担任をさせていただき、1クラス35人の子どもたちと笑いあり、苦労ありの日々を送っています。高校・大学と吹奏楽をしていたこともあり、部活動は吹奏楽部を受け持っています。一口に吹奏楽部の顧問といっても、私は音楽の専門家ではありません。部員たちと意見が食い違って対立することもしばしばありますが、40人を超える吹奏楽部員たちと互いに成長し合い、楽しく活動しています。合奏の指導をする難しさはありますが、自分の経験を授業以外に生かせることは、中学校教諭の魅力の一つなのだろうと思っています。

高校時代に国語教諭を志した私は、地域推薦入試で奈良教育大学を受験しました。幼稚園から大学まで奈良で教わり、逆に教える立場になっても奈良にいるということは、きっと何かしら縁のあることだったのだと思います。この先奈良から離れることがあるかも知れませんが、ふるさとについて知っていることを、できる限り子どもたちに伝えていけたら良いなあ、という思いは人一倍強いのかもしれません。

教師1年目は、大きな失敗をたくさんしました。さらに今年は初めての学級担任ということもあって、「これで良いのだろうか」と自問自答し、思い悩むことはあります。それでも、私を頼りにして悩みを打ち明けてくれる子、生き生きとした反応を返してくれる子たちの姿を見ていると、それだけでまた「明日も頑張ろう」と思えます。子どもたちの力って、本当に大きいですね。

大学での学びで最も記憶に残っているのは、近代文学研究室でのさまざまな活動です。研究室では、文学作品をあらゆる方面から学びました。また、国内外を問わず、作品の舞台となった地を実際に訪れました。自分の目で実際に見た景色と、作品内容を頭の中でつなぎ合わせるのは、言葉では言い尽くせないほど楽しく、充実したものでした。研究室は、何かに挑戦してみる勇気や、一つのことをとことん追求していく姿勢、今までの私には無縁だったものが得られた大切な場所でもあります。研究室の日高先生をはじめ、ゼミの仲間たちと共に過ごした学生時代は、私の心の中で何物にも代えがたい思い出となっています。

今まで私が学んできた多くのことを、そのままでなくとも別の形でも良いから伝えていきたい…その思いが、今の私の「教えたい」気持ちの原動力になっているのだと思います。

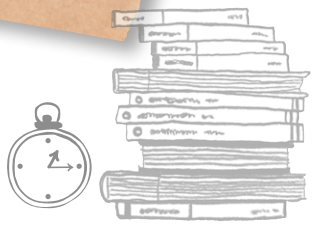
After graduation

自分のクラスでの道徳の授業

奈教のひみつ

学生広報スタッフ
“なっきょん’s CLUB”
企画

授業紹介　～実践英語表現研究～
（アムンルド トーマス マーティン 専任講師）



本学では、教養科目から専門科目まで数多くの授業が開講されています。
その中から今回は、演劇スクリプトを教材として使用し、日常で使う実践的な英語表現を学ぶ専門科目「実践英語表現研究」の様子を紹介します。
[授業時間割シラバス検索システム：http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/KYOUMU/syllabus.htm]

【授業の進め方】

この授業は、受講生による模擬授業を中心としたもの。“Star Taxi”という演劇スクリプトベースの教材を使用し、2人ペアになった受講生がスクリプトから割り当てられた2シーンを担当します。

各ペアには、割り当てられたシーンのデモ実演や単語・イントネーション・ジェスチャー等も含む模擬授業案を準備してもらいます。模擬授業担当日までに、ほとんどの受講生がアムンルド講師の研究室を訪れ、アドバイスを受け、最終確認をします。模擬授業担当日には、担当のペアが責任をもって授業を進めます。模擬授業は、十分な準備ができたか、アドバイス等を参考にして効果的に授業を進められたか、クラス全体の活動をモニターできているか、授業内で起きた問題に上手く対処できたかで評価されます。

また、受講生は毎授業後に授業日誌を付けており、受講生はこれによって授業内での質問をしたり、準備過程をチェックしたりします。また、将来この教育法が現場で使えるか、応用した場合の問題点は何かなどについて、模擬授業を通して気づいたことを基に考察を深めます。また、学期末には授業全体を振り返ってエッセイの提出が求められます。

- 講義時間：90分
- 講義中は英語のみ使用
  奈良教育大学生以外に、一般の方2名も受講している
  （オープン・クラスの対象科目となっており、一般の方も受講できる）

※オープン・クラス
大学の授業を一般の方に公開し、学生とともに受講していただくもの。これは本学が行う大学開放事業の一環で、本学教育学部で開設している授業の一部を公開し、大学を生涯学習の場として活用するという社会的要請に応えるとともに、地域社会と大学との連携を深めようとするもの。

【取材当日の講義の流れ】

1 ウォーミングアップ❶

受講生で輪になり、講師が指定する物体をイメージしながら、順に隣の人へ渡していく
（例：かわいいねずみ、トラ、重い○○など）

2 ウォーミングアップ❷

ホワイトボードにキーワード
（形容詞／adjectivesと人物／charactersが示されている

キーワードからいくつか選択し、2人ずつ組になってキーワードを使用したショートストーリーを考え、練習する

他の受講生にショートストーリーを披露し、それを見た受講者がどのキーワードを使ったストーリーなのかを当てる

3 模擬授業

講師役の受講生2名が担当

講師役の受講生が今日の授業で取り上げるシーン（1つ目）に出てくるボキャブラリーや登場人物を説明（分かりにくいものは写真等を用いて説明）、その後受講生全員でスクリプトを黙読

講師役の受講生がシーンをデモ実演

受講生がペアに分かれてシーンを練習

（いくつかに区切って練習→通し練習）
（講師役の受講生は練習する各ペアを見て回り、指導する）

講師役の受講生の前で受講生が実演

続きのシーン（2つ目）についても、上記同様に練習等を進める

授業終了
おつかれさま～

受講生の声

オープン・クラス受講生
山本 和子 さん

授業は和気あいあいとした雰囲気の下で進められ、とても面白くて、ユニークで、楽しんで受講しています。そして、若い学生達のエネルギーをもらっています。演劇スクリプトを使用し、実際に演じながら進められるこの授業スタイルは、英語でのコミュニケーション能力を養うのに、とても良いと思います。

教育学部 学校教育教員養成課程
言語・社会コース 3回生

中村 美沙（なかむら みさ） さん

考え方やその場の状況によって、同じ英語でもイントネーションや雰囲気が異なるということが、自ら演じて表現することでよく理解することができます。また、模擬授業等を通じて英語の教授法を学ぶことで、将来実際に教師として現場に立った時に役立つスキルを身につけることができ、教師としてのトレーニングになります。

アムンルド講師から学生へのメッセージ

この授業では、皆さんに多くのことを学んでもらいます。講義名「実践英語表現研究」のとおり、日常で使う多くの表現やジェスチャーを学んでもらいたいのです。

それと同時に、本学は教育大学であり、また受講する学生の多くが英語教育専修に所属していますので、活動的で魅力的な授業をし、生きた表現を教えることやロールプレイを用いた教授法を学んで欲しいと思います。これらは、英語教育において重要な要素ですが、多くの現場で生かされていないことがしばしばあります。

ヒューマニスティック・ランゲージ・ティーチング（Humanistic Language Teaching）を講義で実践することで、授業中に教師がしっかり指導し活動を評価していれば、生徒主体にしても良いということを感じ、そこから学んでくれることを望んでいます。講義内で演劇を交えた模擬授業を経験することで、将来、より面白く、生徒を引きつける授業を実践してくれることを期待しています。皆さんの将来教えるであろう生徒が楽しく、より活動的に英語を学習できることを望んで。

留学生レポート

Interviewee

大学院 修士課程 教科教育専攻
2回生

増村（ますむら） 里美（さとみ） さん

リヨン第三大学（フランス）（留学期間　2012.8 ～ 2013.5）

Fetes des lumieres（光の祭典）というリヨンのお祭りの日に
ルームメイトと家でろうそくに火を灯しました

ルームメイトと旅行　アヴィニョンの橋の上で

留学をしようと思ったきっかけは。

これといったきっかけはありませんが、私はクラシック音楽に親しんでいたので、私にとってヨーロッパは聖地でした。いつか暮らしてみたいと思っていた場所でした。

留学する前にどれくらい語学の勉強をしていましたか。

大学の第二言語として（気ままに）1年半勉強し、出発直前に外国語教室に10回通いました。正直それだけでは全く足りませんでした。

留学先ではどのような１日を過ごしていましたか。

ごく普通の日々を送っていました。大学に行き、友人と話し、買い物に行って料理をし、ピアノを練習して、たまに飲み会みたいなものに行って……というような生活です。

留学生活で一番驚いたことは何ですか。

「親切」と「常識」の違いです。お店の人がお店についてよく知らなかったり、無愛想だったりというのは当たり前、日本での「お客様」のような関係はありません。あくまでも人と人との関係なのだと思います。バスの運転手さんとお客さんがまるで友達同士のように話し込んでいる姿をよく見かけました。

留学中一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

うれしかったことは、大学のオーケストラに参加できたことです。ピアノコンチェルトを演奏したことは、私にとって良い経験となりました。

大変だったことは、フランス語の聞き取りです。フランス語には、前の単語と後ろの単語が一緒になると別の発音になったり、発音しない音があったりすることがよくあるので、相手の話している単語を想像することが難しかったです。

留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

別の常識、別の価値観を知ることができたので、これから、日本の習慣や常識に疑問を感じることがあるのではないかという気がしています。新たな視点を提案できる人になりたいです。

在学生、高校生の皆さんに一言。

bien-être（よりよく生きる）という言葉があります。「なりたい自分」（職業や具体像ではなく、生き方在り方）を意識すること、そしてお気に入りのものを見つけること。幸せは目標ではなく日々の生活からだと思います。

リヨンに住む日本人の子どもやハーフ、クォーターの子どもたちのための土曜学校のイベント

リヨン第三大学（フランス）

本学の国際交流協定校の一つであるリヨン第三大学（2004年3月交流協定締結）は、フランス第2の都市リヨンにあります。リヨンは歴史ある古い町で、歴史的建造物が多く残っています。また美術館や博物館、劇場が多くあり、有名なオペラを手軽な値段で観ることができる所もあるなど、芸術好きな人にはぴったりな町です。

今回は、本学からリヨン第三大学に留学していた増村里美さんとリヨン第三大学から本学に留学しているSTALDER Lucasさんに話を聞きました。

神戸ルミナリエで友だちと一緒に

Interviewee

リヨン第三大学（フランス）
STALDER（スタルダー）
Lucas（ルカ）さん
日本／奈良教育大学（留学期間　2012.10 ～ 2013.9）

奈良の友だちの誕生日のお祝い

留学をしようと思ったきっかけは。

2011年の夏に、僕は日本語の能力を上達させるために、鹿児島で4週間ぐらい畑や田んぼなどで働くボランティアをしました。その経験がきっかけで日本に留学しようと思いました。

留学する前にどのぐらい日本語を勉強していましたか。

リヨン第三大学で日本語を２年間ぐらい勉強しました。日本語だけではなく日本の文化と文学も勉強しました。

奈良教育大学の学生としてどのような１日を過ごしていますか。

留学生と一緒に食堂で食事したり、寮で料理を作ったりします。そしてどこかを見学したり旅行したりしたいときは、交通やホテルの予約を自分でします。また、いい天気だったら写真を撮りに出かけます。奈良はどこでもきれいですから。

留学生活で一番驚いたことは何ですか。

一番驚いたことは電車が必ず時間に間に合うことです。電車は高くてもすごく便利です。フランス人から見ればそれはびっくりです。

留学中一番うれしかったことは何ですか。

この留学では、日本の一番遠くに旅行できてとてもうれしいです。北海道にも沖縄にも行けました。日本でいろいろな地方を旅行するうちに、日本文化がもっと分かるようになりました。

留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

私の研究の興味は、日本の伝統的な芸術や工芸です。日本で焼き物などを体験したり、展覧会を見学したりして集めた情報や知識を、帰国後の研究に役立てたいです。

日本の大学生、高校生の皆さんに一言。

留学すると、人間は文化によってさまざまな生活習慣や思考法や知覚などを持って生きているということが分かるようになります。これは大切な経験だと思います。もし留学のチャンスがあれば絶対にそれを掴んでください。それは一生に一度の経験かもしれないからです。

沖縄旅行で

キャンパスで輝く学生を紹介

キラリ奈教生

Profile プロフィール

大学院 修士課程 教科教育専攻 2回生

西部（にしべ） 裕香子（ゆかこ） さん

入賞者コンサート会場にて

地道に目標をもって努力すれば、必ず結果は後からついてくる

平成25年3月6日、本学大会議室において平成24年度学生表彰式が開催され、学長表彰4名と学生委員長表彰33名・4団体が表彰されました。今回は、学長表彰受賞者の一人、第13回大阪国際音楽コンクール ピアノ部門 Age-U（専門学校、短大、大学（院）在学者）で第3位に入賞された西部裕香子さんに話を聞きました。

自分の音と向き合い練習を重ねる

学部4回生時の学生委員長表彰に引き続いての受賞となった西部さん。学長表彰に憧れていたものの、まさか自分が受賞することになるとは思ってもみなかったということで、受賞の一報を聞いたときには、うれしさよりも驚きの方が大きかったといいます。「学長表彰に見合うよう、これからさらに精進していかなければと感じています」と受賞に甘んじることなく、今後に向けて早速気を引き締めていました。

今回西部さんが入賞された大阪国際音楽コンクールは、全世界へ羽ばたく数多くの若い音楽家を見出すことを目的として開催されている国際規模のコンクールで、審査員には国内外の著名な演奏家、教育者が名を連ねています。ピアノ部門 Age-U 第3位への入賞について、「とてもうれしい。この時の演奏は、今まで練習してきた中でも自分なりに満足のいく演奏ができたので、それを評価していただけた喜びは大きかったです」と率直に感想を語ってくれました。

練習にあたっては、聴いてくださる方々に伝わるような演奏をするために、曲が何を言いたいのかを背景などを含めて考え、苦手な部分は何度も取り出して練習するそうです。今回のコンクールに取り組む中で、演奏が変にまじめすぎて面白みがないと指摘された西部さん、どう工夫すればよいか随分悩みました。CDを聴いたり、自分の演奏を録音しては自分の音と向き合い、さらにレッスンでアドバイスをもらいながら練習を重ねました。そうするうちに、曲に対する思い入れが強くなり、自然と改善することができたそうです。地道な練習の積み重ねが、今回の結果につながりました。

奈良教育大学で音楽を学ぶ

本学の教育学部から大学院へ進学し、音楽を学んでいる西部さんですが、奈良教育大学で音楽を学ぶことについて、次のように話してくれました。「奈良教育大学は人数が少ないので、教師と学生の距離が近いことが魅力です。研究室は学年を問わず和気あいあいとした雰囲気ですが、ピアノに対する姿勢は皆とても真剣で、刺激しあいながら互いを高めることができるという最高の環境です。また、演奏活動をされているなど第一線で活動されている先生方がおり、教育大でありながらレベルの高い指導を日々受けることができるのも、この大学の魅力の一つだと思います。」

ピアノと真剣に向き合う

西部さんは、5歳からピアノを始め、今までピアノを続けています。特に大学受験を機にピアノときちんと向き合うようになり、大学では真剣に頑張ってきました。ピアノと真剣に向き合うことで、自分でもこんなに頑張れることがあるのだと気づくことができたといいます。決して楽しいことばかりではありませんが、目標に向かって真剣に一つのことと向き合うことの喜びを知り、日々の生活をとても充実したものへと変えることができたそうです。

今後については、「一つ一つのことを丁寧にクリアし、スキルアップできるよう日々精進していこうと思っています。また、習ってきたことを、次は自分が伝えていけるようになりたいです。子ども達としっかり向き合い、ピアノを通して音楽の楽しさを伝えていきたいと思っています。」と話してくれ、強い意思が伝わってきました。

読者へのメッセージ

最後に、読者へのメッセージをいただきました。「地道に目標をもって努力すれば、必ず結果は後からついてくると思います。上手くいかないことも多々あるでしょうが、諦めずに目の前のことを一つ一つ消化し、少しずつ頑張っていくことが大事だと思います。」

課外活動紹介

ブカツ魂！

奈良教育大学には、文化会所属11団体、体育会所属28団体のクラブがあり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。
今回は、合氣道部です。

文化会

- ギターマンドリンクラブ
- ウインドアンサンブル
- 軽音楽部
- 華道部
- 茶道部
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会) すぎのこ
- 書芸部
- 地歌箏曲部
- 現代視聴覚文化研究会

体育会

- 合氣道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 女子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部
- 体操競技部

[学生団体・クラブ紹介] http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/extracurricular_education/

pick up

合氣道部　部員数16名

創部年は、50年前。現在の部員は、男子7名、女子9名の計16名(1回4名、2回5名、3回4名、留学生2名)。合氣道には試合がないので、戦績等はありません。演武大会は、5月、6月、12月頃に行われます。日々の稽古を大切にしながら、昇級や昇段に向けて日々切磋琢磨しています。

攻撃を行わない愛と氣の平和武道

教育学部　学校教育教員養成課程
言語・社会コース　3回生
The International School of Penang (Uplands)出身
合氣道部　主将
浅井（あさい） 大輔（だいすけ） さん

合氣道部は、その名の通り、合氣道をしたい人たちが集まって作った部活動です。合氣道という名前を聞くと、柔道や空手等の有名な武道に比べれば、マイナーと思われがちです。ですが我が部は、今年度で第50代にあたる新入生を迎えました。すでに半世紀もの時間が、合氣道部創部より経ったのです。今も男女交えて和気あいあいと毎週火曜、水曜、金曜に活動しています。

合氣道の目的は相手を倒すことではありません。こちらから攻撃をしかける動きは一切ないのです。ただ、攻撃してくる相手の力をもらってそれをそのまま返すだけ。ある程度の体格差や男女差は関係ありません。

入部する人は、合氣道初心者ばかり。しかも、運動部未経験の子もいれば、バスケットボール、空手を少しやっていたりとさまざま。初段を持った3回生が基礎から教える訳ですが、その3回生も、1回生当時は、当時の3回生に同じように教えてもらっていた訳です。こうやって初代の先輩から技術が脈々と受け継がれてきたのだな、と縦のつながりを思うと、感慨深いものがあります。

イベントも多く、演武大会では、自由に技を連続させて見せ合い、その技の美しさを競います。夏に合宿も行います。普段の稽古ももちろんですが、イベント事に多くのOBの先輩方が参加してくださり、盛り上げてくださいます。

合氣道を通じて学ぶことは多くあります。人体構造についても見識が持てますし、OBの先輩方との付き合いを通じて、社会勉強にもなります。半世紀を迎えたとはいえ、まだまだ合氣道部を盛り上げて、こんな面白い世界があるんだな、と多くの人に興味を持ってもらえるよう、これからも部員全員で精進していきたいと思っています。

夏合宿の風景です。2人相手に極め技をかけています。

これも夏合宿の風景です。攻撃してきた相手を投げで逃がしてあげています。

4回生の先輩方が卒業されるときに行う追い出し稽古の風景です。

活躍する奈教生

女子バレーボール部

関西大学バレーボール連盟3部へ昇格！！

女子バレーボール部が、関西大学バレーボール連盟 2013年度春季リーグ戦女子4部において全勝優勝を果たし、念願の3部への昇格が決まりました。
同連盟は、近畿2府4県の男女合わせて約150チームが所属している競技団体連盟で、男女別にそれぞれ1部～8部に分かれてリーグ戦が行われています。女子では、3部以上に所属する大学のほとんどが私立の強豪校であり、それら強豪校相手に今後の活躍が期待されます。

教育学部　学校教育教員養成課程
身体・表現コース　3回生
和歌山県立串本古座高等学校出身
女子バレーボール部主将
向井（むかい） 美鶴（みつる） さん

かなり前から「3部昇格」を目標としてきましたが、なかなか目標達成できずに、毎回悔しい思いをしてきました。そのため、喜びも大変大きかったです。

今後は、今回のリーグで見つかった課題や学んだことを、しっかりと次のリーグに生かしていきたいと思います。また、日頃から支えてくださっている人がいることを胸に、感謝の気持ちを忘れず、ずっと応援したいと思ってもらえるような、またその期待に応えられるような人間・チームになれるよう努力していこうと思います。

12月15日

ファッションショー形式で羊毛製品のコーディネート提案をする学生

「アウトキャンパススタディ in 山添村」報告会を実施

技術及び家庭科教育専修の1回生16名が、授業の一環で山添村を訪れ、その歴史や文化、生活様式について学び、それぞれ木材加工と羊毛加工に分かれて実習を行いました。今回、その成果を披露する報告会が、山添村で実施されました。

報告会では、実習の成果報告と「地域力と大学力の協同による学生教育と地域活性の可能性」をテーマにしたパネルディスカッションが実施され、窪田山添村長と長友学長も耳を傾けました。

2月15日

協議会の様子

奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会を開催

本学と奈良県教育委員会は、連携協力の円滑な実施を図るために平成15年度以降毎年協議会を開催しており、今年で10回目を迎えました。本学からは長友学長を始め21名、県教委からは冨岡教育長を始め16名が出席、約2時間にわたって活発な意見交換が行われました。

2月28日

議論する参加学生

京阪奈三教育大学連携「学生主体セミナー」学生研修会を開催

京都教育大学、大阪教育大学、本学の学生を対象に、課外活動に関する合同研修会を開催、各大学から体育会や大学祭実行委員会で役員を務める学生21名が参加しました。

これは、学生が主体的に研修を行うことを目的に開催されたもので、各大学の現状や課題について情報交換を行い、それぞれが抱える課題について共に解決策を考えるなどしながら、交流を深めました。

2月28日

参加者にクイズを出題する学生

食育イベント「あつまれ！お米たんけんたい」を実施

附属幼稚園の園児とその保護者を対象に、お米に関する食育イベントを開催、約200名が参加しました。

このイベントは、家庭科教育専修の学生を中心に活動する「なっきょん食育塾」の学生らが、「米」への興味と「食」の楽しさを伝えることを目的に企画、クイズ形式でのお米に関する学習や、白米と黒米（古代米）で作ったおにぎりやパンの食べ比べなどが行われました。

4月8日

飲酒ゴーグルを着用して飲酒状態を体験する学生

警察署と協同して飲酒運転根絶イベントを開催

学生自治会と奈良警察署が協同し、若い世代からの飲酒運転根絶気運の向上を目指して、学内で啓発イベントを開催しました。

啓発物品を配布して注意を呼びかけ、また飲酒した状態を再現できる飲酒ゴーグルが用意され、簡単な作業や歩行実験によって、飲酒状態では俊敏性やバランス感覚が落ちることを体感できるコーナーも設けられました。

4月17日

報告会の様子

平成24年度学生企画活動支援事業報告会を開催

平成24年度に学生企画活動支援事業（学生が企画する事業のうち優れたものに対して大学が経済的支援を行う）として採択されて活動してきた7つの団体が、1年間の活動を報告しました。今回は、報告会の様子が京都教育大学と大阪教育大学に同時中継され、中継先の大学からも質問が飛び出すなど、より充実したものとなりました。

［学生企画活動支援事業］
http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/planning.html

附属学校園ニュース

［附属学校園］
http://www.nara-edu.ac.jp/guide/garden.html

1月11日

［附属中学校］

『本当の支援とは』　～2012年度「平和のつどい」～

「平和のつどい」は、核兵器廃絶を求める「ヒロシマ・ナガサキ アピール」署名活動が展開されていた、1986年当時の生徒会中央委員会が、世界平和のために自分たちにもできることとして提案したことをきっかけに始まりました。以後その時どきの社会情勢や課題に応じて、生徒と教師が討議を重ねてテーマと内容を決め、継続して実施してきた大切な行事となっています。今年は、カンボジアで孤児の支援活動に取り組み、「カンボジア子どもの家」を設立された栗本英世さんをお招きし、「本当の支援とは」と題して全校生徒対象の講演をしていただきました。栗本さんは、カンボジアの内戦で敷設された地雷の恐ろしさに触れ、地雷の模型を示しながら「この学校の運動場に地雷が埋められているだけでも歩くことができない。カンボジアには『地雷畑』と呼ばれる場所も多く、たくさんの子どもが犠牲になった」などと話されました。体育館での講演後、これまで東北への支援活動を進めてきた生徒会役員が、栗本さんと懇談し、本当の支援のあり方についてさらに学びを深めていました。

4月25日

［附属小学校］

全校の先頭に立つ児童委員の選挙

全校の自治活動を進める伝統をもつ附属小学校は、子どもたちどうしのつながりを大切にした「全校なかまづくり」という視点で、児童会活動の今日的な意義を確かめ、実践しています。

4月25日（木）に2013年度前期児童委員を決める立会演説会と投票が行われました。6年生103人のうち、29人（6年生全体の30%近い子どもたち）という大人数の立候補者による立会演説会では、自分の願いを訴え、5・6年生の質問にも一生懸命答えている姿に、小学校の最高学年になった誇らしさと喜びを感じるとることができました。

［附属幼稚園］

“こどもの森”に新しい木の遊具ができたよ

附属幼稚園には、子どもたちの絶好の遊び場所となる自然いっぱいの“こどもの森”があります。そこでは、四季折々いろいろな表情を見せてくれる自然の中で、虫を見つけたり、木登りをしたり、かくれんぼをしたり、探検ごっこをして暗いところを歩いたりなど、日々子どもたちが豊かな生活を創り出しています。そんな“こどもの森”に、さらに子どもたちが全身を使ってダイナミックに遊べるようにと、木や縄で作った遊具を増設しました。子どもたちの心を開放させる癒やしの空間であった“こどもの森”が、健康で元気なからだづくりにもつながる場所として、よりいっそう子どもたちの大好きな場所となっています。

奈良に息づく仲間たち

自然環境教育センター長
教授 鳥居（とりい） 春己（はるみ）

タンポポ

タンポポはキク科タンポポ属の総称。英名はdandelionだが、フランス語の「ライオンの歯」から由来し、ギザギザの葉がライオンの歯を連想させるためと言われる。学内にはカンサイタンポポとセイヨウタンポポが咲くが、両者の交雑個体もあるらしい。タンポポは生長点が地表近くにあるので、

▲学内のタンポポ

▲総苞を見ても何タンポポかわからない

花や茎を切っても容易に再生し、他の花が育たない厳しい環境でも生き残る生命力を持っている。奈良公園のシバ地ではシカの採食に抵抗して、1センチの草丈で花を咲かせている。厳しい環境に育つはずのタンポポだが、最近は学内から姿を消し始めている。今年、学内でタンポポの花を探したがわずかしか見つけられなかった。草丈も低い。ニワゼキショウも低くなっているようだ。低い草丈は侵入しているシカの採食や過度な草刈りの影響と考えられる。いずれにせよタンポポさえも貴重種になりそうだ。他にも姿を消している奈良教の仲間もあるのだろう。

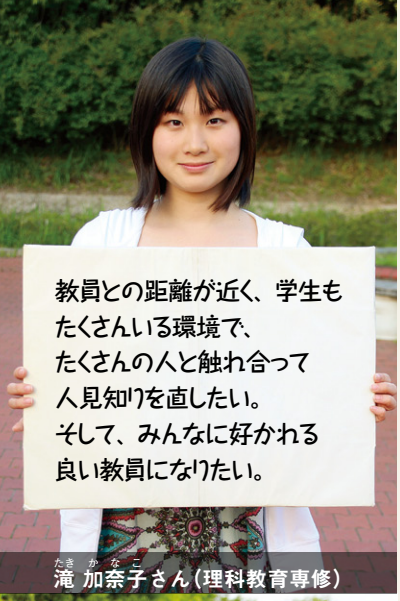
［自然環境教育センター］ http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/

奈教生に聞きました！

vol.8

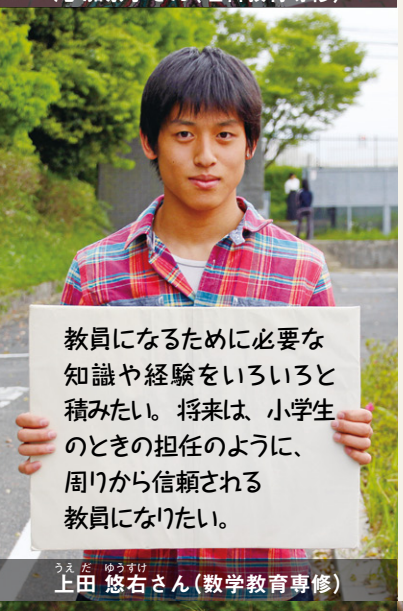
新入生に聞きました「4年間でやりたいこと」

希望に満ちて奈良教育大学に入学した新入生の皆さん。勉強に部活に…いろいろとやりたいことがたくさんあるでしょう。今の気持ちを忘れずに、4年間有意義な学生生活を過ごしてください。

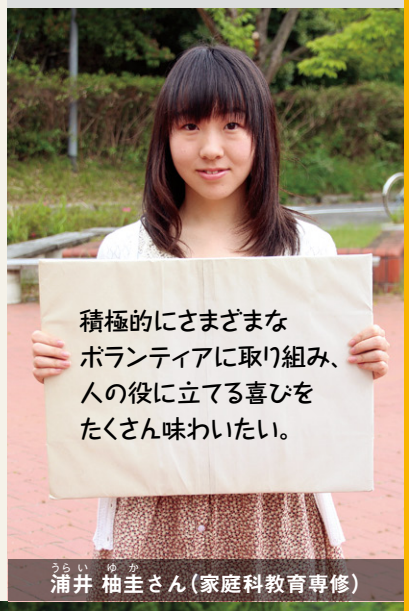


滝 加奈子さん（理科教育専修）

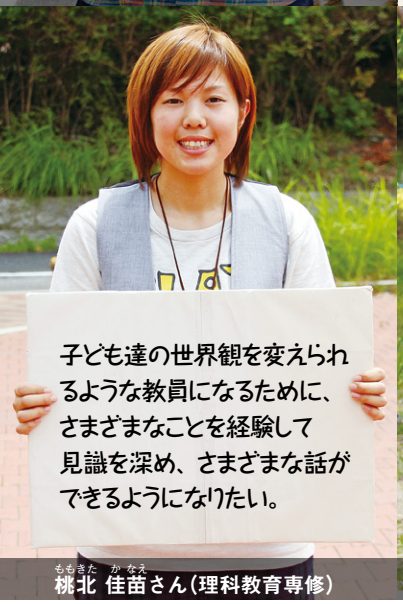
唐澤 亜由美さん（家庭科教育専修）



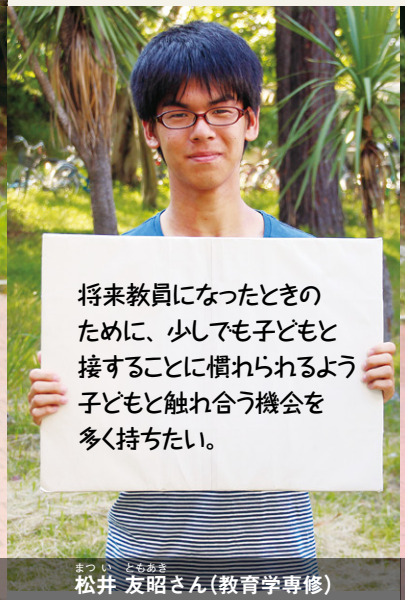
上田 悠右さん（数学教育専修）



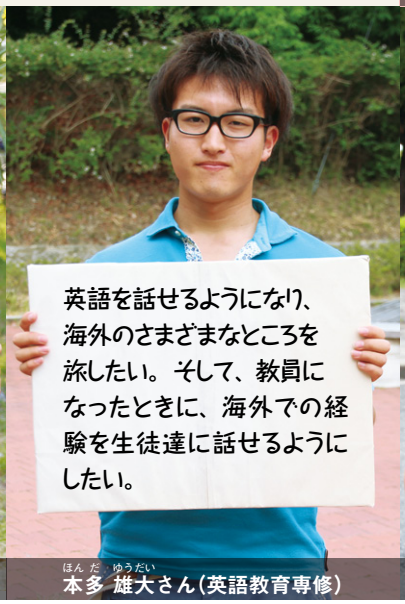
浦井 柚圭さん（家庭科教育専修）



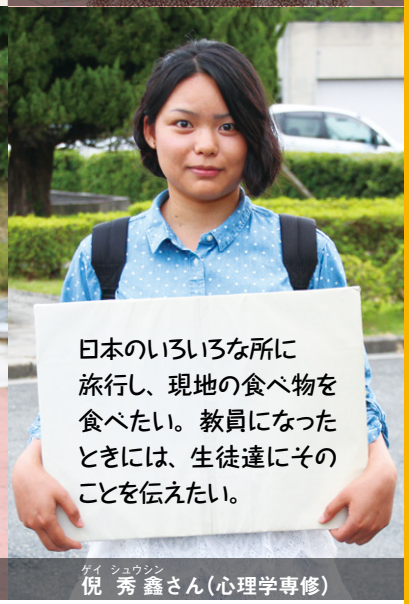
桃北 佳苗さん（理科教育専修）



松井 友昭さん（教育学専修）



本多 雄大さん（英語教育専修）



倪 秀鑫さん（心理学専修）

弊誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。
QR コード対応の携帯電話にて
アンケートに回答いただくことができます。
皆様からのご意見・ご要望お待ちしております。

なっきょん's CLUB

広報誌づくりなど、広報活動をお手伝いいただける学生広報スタッフを募集しています。
興味のある方は総務企画課広報担当まで、
お気軽にお問い合わせ下さい。

国立大学法人 奈良教育大学

奈良教育大学 広報誌『ならやま』
第43号　平成25年7月31日　編集／広報委員会　発行／国立大学法人奈良教育大学
3月·7月·10月各下旬発行
〒630-8528 奈良市高畑町　TEL.0742-27-9104　FAX.0742-27-9141　Email : kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp
※広報誌「ならやま」は大学ホームページからもご覧いただけます。
http://www.nara-edu.ac.jp/

■ 大学ホームページでは、わかりやすく迅速に情報を発信しています。ぜひご覧ください

奈良教育大学 検索